

2. 保健科学部門（理化学）

保健科学部門（食品化学担当、微量分析担当）が平成 19 年度に実施した非定期業務は、食中毒や苦情等の保健所からの依頼検査、保健所以外の行政からの依頼検査、一般からの依頼検査、油症検診受診者の血中 PCB の検査及び厚生労働省との共同研究であり、次表のとおり実施した。

表 非定期業務総括表		
業務内容	検体数	項目数
計	236	4,511
保健所からの依頼検査	115	2,219
保健所以外の行政からの依頼検査	60	2,231
一般からの依頼検査	9	9
油症検診受診者の血中 PCB の検査	52	52
厚生労働省との共同研究	—	—

1) 非定期依頼検査

(1) 保健所からの依頼検査

食中毒及び苦情等に伴う保健所からの理化学依頼検査は、食品添加物、残留農薬、異物、腐敗（ヒスタミン）、自然毒（ソラニン、テトロドトキシン等）及び官能検査など 64 件、115 検体、2,219 項目について実施した。

(2) 保健所以外の行政からの依頼検査

保健所以外の行政からの理化学依頼検査は、食品添加物、残留農薬、官能検査など 11 件、60 検体、2,231 項目について実施した。

(3) 一般からの依頼検査

一般からの理化学依頼検査は、異物の成分分析の検査 9 件、9 検体、9 項目について実施した。

詳細は「Ⅷ 資料」に掲載した。

2) 油症検診受診者の血中PCBの検査

福岡県油症一斉検診に参画し、検診受診者の血液 49 検体および健常者対象群の血液 3 検体について実施した。

PCB ピークパターンの判定基準を求めるため、福岡県、北九州市および福岡市において採取した健常者の血液（男女各 5 名の混合物）について分析した。健常者対照群血液の PCB 濃度は 0.39 ～ 0.73ppb で平均値は 0.52ppb であった。また、1/2% 値^{*1}及び 5/2% 値^{*2}の平均値は 26.52 及び 8.87 で、油症検定用の標準偏差はそれぞれ 8.75 及び 2.04 となった。

※ 1：No.2 (2,4,5,2',4',5'-hexachlorobiphenyl 相当) に対する No.1 (2,4,5,3',4'-pentachlorobiphenyl 相当) の濃度比 (%)

※ 2：No.2 に対する No.5 (2,3,4,5,3',4'-hexachlorobiphenyl 相当) の濃度比 (%)

3) 厚生労働省との共同研究

(1) 残留農薬等の分析法の開発

残留農薬等のポジティブリスト制の導入にあたり、残留基準が大幅に増加した。基準値設定に伴う分析法の検討等を行うため、「残留農薬等分析法検討会」が設置され、委員として残留農薬等の分析法の開発に参画した。農産物中のチフェンスルフロンについて LC/MS/MS による分析法を検討した。

(2) 食品残留農薬等一日摂取量調査

市民の食の安全・安心を確保する観点から「食品残留農薬等一日摂取量調査」に参画した。「LC/MS による農薬等の一斉試験法Ⅱ（農産物）」が適用可能な 57 農薬についてⅠ～ⅩⅣの食品群に分類し調査した。

詳細は「Ⅶ 報告・ノート」に記載した。

(3) メチル水銀バリデーション試験への参画

有害物質等摂取量調査の信頼性向上のため、従来の試験法に問題のあった「メチル水銀分析法のバリデーション試験」に参画した。模擬試料 3 検体のメチル水銀含量を GC/ECD 法により測定した。総水銀もあわせて測定し、メチル水銀と総水銀の比を算出した。